授業科目	子ども音楽療育概論					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	選択	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	藤田　稔子						
授業概要	障がいのある子ども達の心身に様々な音楽の要素を用いて発達的な援助を行う音楽療育について、その基礎と専門知識を学びます。「音楽」は子ども達にどのように影響を与えるのか、「音楽」の持つ力について考えていきます。また、「障がいのある子ども達」と言っても、様々な障がいがあります。それぞれの障がいについて理解を深め、それぞれに合った方法や配慮点を学んでいきます。 本科目は、「こども音楽療育士」取得のための必修科目です。						
授業形態	講義			授業方法	グループワーク		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	1．子どもと音楽という視点から、子どもの音楽的なそだちと音楽の多様性について理解を深める。 2．様々な障がいを知り、その子どもの持てる力を高める支援を考えることができる。 3．多様な音楽の力を知り、それを適切に用いて一人ひとりが生き生きとした音楽活動を楽しめる工夫が考えられる。
理想的レベル	1．子どもと音楽という視点から、子どもの音楽的なそだちと音楽の多様性について理解を深める、活動を立案できる。 2．様々な障がいを知り、障がいに応じたその子どもの持てる力を高める支援を考えることができる。 3．多様な音楽の力を知り、それを適切に用いて一人ひとりが生き生きとした音楽活動のプログラムを組み立てることができる。

評価方法・評価割合		
評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート	70%	各回の課題記録用紙、最終レポート（40点）
発表（口頭、プレゼンテーション）	30%	グループセッションの発表
レポート外の提出物		
その他		

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH11323J

学習課題（予習・復習）	1回の学習目安（時間）
（予習）各回事前に配布する課題記録用紙の「予習編」を仕上げてくる （復習）課題記録用紙を完成させる	4

授業計画	
第1回	テーマ：オリエンテーション

	授業の概要、授業の進め方、「こども音楽療育士」について説明する。
第 2 回	テーマ： 療育の場における「音楽」（外部講師） 実際に「音楽」を用いた「療育」の場面を見て、音楽療育のイメージが明確になるように学びます。
第 3 回	テーマ：音楽療育の意義 障がい児を対象にした音楽療育の意義と音楽の役割について解説します。
第 4 回	テーマ：音楽と感覚刺激（外部講師） 重度の障がいを持った子ども達が「音楽」を楽しめるようになった場面からグループで「音楽と感覚刺激」という視点で考察します。
第 5 回	テーマ：楽器が生みだす感覚刺激 療育の場面でよく用いられる楽器を実際に用いながら、それぞれがどのような役割を果たすか、グループで考えていきます。
第 6 回	テーマ：触覚刺激を提供しやすい楽器（外部講師） 障がいについて解説をし、特に触覚刺激を提供しやすい楽器を紹介し、実際に使って感覚を実感する。
第 7 回	テーマ：振動刺激を提供しやすい楽器 障がいについて解説をし、特に振動刺激を提供しやすい楽器を紹介し、実際に使って感覚を実感する。
第 8 回	テーマ：視覚で楽しめる楽器（外部講師） 障がいについて解説をし、特に視覚で楽しめる楽器を紹介し、実際に使って感覚を実感する。
第 9 回	テーマ：体の配置と筋肉調整の感覚刺激を生む楽器（外部講師） 障がいについて解説をし、感覚刺激の受け取りが弱かったり反対に過敏である子どもへの適した楽器を紹介し、実際に使って感覚を実感する。
第 10 回	テーマ：「音楽」を用いた療育のプログラム①　子どものアセスメント 支援する子ども達の発達特性や対応の禁忌を知ることが重要です。事例を用い、グループで子どものアセスメントをしていきます。
第 11 回	テーマ：「音楽」を用いた療育のプログラム②　活動のポイント グループで担当した障害のある子どもの事例を用いて、どのような配慮が必要で、どのように目標設定をするかを考えます。
第 12 回	テーマ：「音楽」を用いた療育のプログラム③　音楽療法グループセッションのプログラムを組み立てよう　その１ 活動の流れを大切にした 15 分のグループセッションをグループで考えます。
第 13 回	テーマ：「音楽」を用いた療育のプログラム④　音楽療法グループセッションのプログラムを組み立てよう　その２ グループ内で練習をしてプログラムをブラッシュアップさせます。

第 14 回	テーマ：「音楽」を用いた療育のプログラム⑤　音楽療法グループセッションのプログラムを組み立てよう　その３ 各グループ考えたグループセッションを実際にクラスでおこなう。
第 15 回	テーマ：まとめ 本講座のまとめをする。
テキスト	各回授業で配布します。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	・土田玲子監修：感覚統合を活かして子どもを伸ばす！「音楽療法」、明治図書、2016. ・根岸由香：「特別支援教育・音楽療法・保育」サポート BOOK　根岸由香のつながる音楽、あおぞら音楽社、2019. その他、本学図書館の指定図書を活用してください
課題に対するフィードバックの方法	各回、課題記録用紙を提出してもらいますが、必要に応じてコメントを付けて返却いたします。
学生へのメッセージ・コメント	「こども音楽療育士」が持つ知識と技術は、「療育」の場面だけでなく、今まさに様々な刺激を受けながら発達している全ての子ども達にとっても活用できるスキルです。 また、社会には、様々な障がいを持ってイキイキと生きている子ども達がいます。様々な子ども達がいることを理解し、専門職として関わりができるようになってください。